

## —— 総務委員会 ——

委員長 佐藤潤平  
副委員長 平尾稔幸  
副委員長 石塚和彦  
副委員長 宮崎正之  
委員 川村弥恵子

### 1) 2011年度通常総会

- 2011年4月22日(金) 札幌全日空ホテル  
支部総会 : 第1号議案～第6号議案まで説明後、可決承認された。  
総会員数177名 総会出席者 116名(内委任状66名)
- 記念講演 : テーマ 「2050年の建築家像」 講師: 芦原 太郎会長
- 意見交換会 : 賛助会員及び来賓を交えて意見交換会を開催。

### 2) 新年交流会

- 2012年1月20日(金) 京王プラザホテル札幌 地下1階
- 新年交流会: 同日、賛助会主催の新年交流会に多数参加する。 計132名  
出席者正会員51名 賛助会員83名(54社)

### 3) 支部総務委員会

- 新々会計PCA会計システムによる予算書作成トレーニング、及び事務処理。
- 準会員制度の立ち上げ、規約作成、勧誘。
- 9月臨時総会、委任状集めのローラー作戦。
- 各事業への協力。
- 入退会に関する事務手続き+会費未納に関する呼びかけ、勧告。

### 4) 本部総務委員会

WEB. 会議などで11回の会議に参加。資格に問題のある入会者のチェック、会費滞納者の扱い審議、(①入退会)公益社団法人への移行決定による各種規定・規約の検討、(②規定類整備)本部事務局体制の改革、(③事務局体制)赤字会計・決算の改善検討、予算執行とキャッシュフローのチェック、新々PCA会計システムの導入(④財務会計)、(⑤その他あらゆる情報の整理)、理事会への事前検討委員会のような役割を担っています。

特に規程類WG(総務委員会マター)・規程類特別委員会(理事会マター)に所属し、公益法人申請に間に合わせるように規程類を整理している。次年度以降も法人形態移行(全国単一会体制の公益社団法人申請予定)に伴い、本部との繋がりは一層強くなると考えられます。

委員長 齊藤文彦  
副委員長 中原隆一  
副委員長 小倉寛征

本委員会では、

- ① 北海道建築設計会議の構成団体幹事
- ② 本部業務職能委員会委員

に加え、建築設計のリスク管理についての活動を行った。

何れも業務環境の向上と他団体との情報共有を目的としている。

- ①北海道建築設計会議（建築設計関連の 11 団体(10 団体+新聞社)で構成している北海道独自の会議)、に毎月の参加活動を実施している。昨年度は計 10 回開催され、特に各団体の法人化情報や、各会の動向について情報交換を行った。昨年度からは、北海道まちづくり促進協会の退会の後、北海道まちづくり協議会が参加している。また、会場確保のため、各会が持ち回りで会場費を負担することとなった。
- ②本部業務職能委員会では、小規模建築についての利用を想定して作成した JIA の設計契約約款について、現行の法規上の問題がないかなど改正の必要性について議論している。工事の契約約款についての意見交換も行っている。

また、北海道開発局、北海道、札幌市、建築士会、建築士事務所協会と JIA による公共建築設計懇談会(8 月 23 日)および同幹事会(3 月 21 日)に出席し、公共の木造化の取り組みや業務上の課題について協議した。

なお、建築設計に起因する訴訟等での設計者支援について活動の方法を模索している。数人の関係者にヒアリングを行ったが、具体例の検討をするにも守秘義務の問題があるなど課題が多い。また、他団体にも同様の活動があり、今後の対応については検討中。

委員会としては、今後も建築家の職能と業務品質の向上を目指し活動していく。

—— 広報委員会 ——

2011年度の活動報告

広報委員会は、本年度も昨年度同様、広報担当、システム担当、出版担当、交流担当、に分かれて活動するとともに、システム担当を皆でサポートし、おかげ様でUIA大会前に支部ホームページのリニューアルを終える事ができました。随時マイナーチェンジを考えておりますので、皆様よりお気づきの点、ご意見等いただければ幸いです。

■ 委員長 照井康穂

■ 広報担当 副委員長：日野佳子

委 員：大坂崇徳、尾形剛弥、小倉寛征、小杉朋希、高尾浩宣、  
平尾稔幸、湊谷みち代、山内圭吉

■ HPシステム担当 副委員長：大塚達也

委 員：石塚和彦、沢田貞和

■ 出版担当 副委員長：岡田順博

委 員：大杉崇、灘本幸子、大田司

■ 交流担当 委 員：勇田常夫、沢田貞和

委員長 小杉 朋希  
副委員長 山内 圭吉  
副委員長 十河 昌司

## 1) 建築展・講演会

本年度はUIA東京大会と関連イベントとしてカタルニア展など大規模事業が多く、例年行ってきた建築を伝えるセミナーを休会した。

- ・7月30日 U-40建築家セミナー2011 AID40@SAPPORO 富田玲子 講演会  
大光電機札幌「ラッピングコア札幌」 約80名参加  
近畿支部主導により全国4箇所で行われた、UIA大会プレイイベント
- ・9月27日 UIA大会プログラム AID40@TOKYO  
近畿支部主導によりUIA大会プログラムの一つとして行われたものに対して、支部事業としてバックアップ体制で活動。北海道支部より堀尾浩氏と照井康穂氏を大会へ送り込み。
- ・10月2日～10月8日 カタルニア建築展 in 北海道  
北海道大学遠友学舎 展示部門として企画・運営。
- ・10月2日～10月9日 北海道建築展 in バルセロナ 報告展  
札幌駅地下歩行空間 パネル展示を企画・運営。
- ・10月2,3日 札幌市イベント ミニ札幌 本年は技術提供のみ。
- ・3月16日 建築家セミナー2012 ABC商会後援  
坂茂氏 STVホール 約200名参加

来年のJIA札幌大会に向けた実行委員会へのサポート業務がメインとなると予想されるが、建築を伝えるセミナー等の小規模イベントの開催が望まれる。

## 2) 第3回テスクチャレンジコンペ

第3回のJIAと㈱テスク共同主催の設計コンペに関して、実行委員会を中心として昨年1月～9月までの長期に渡りサポートを行った。

1月～：月1回の会議招集・運営（計14回開催）

4月20日：要綱発表

7月20日：登録〆切り

8月20日：応募〆切り

9月3日：公開審査 札幌駅地下歩行空間

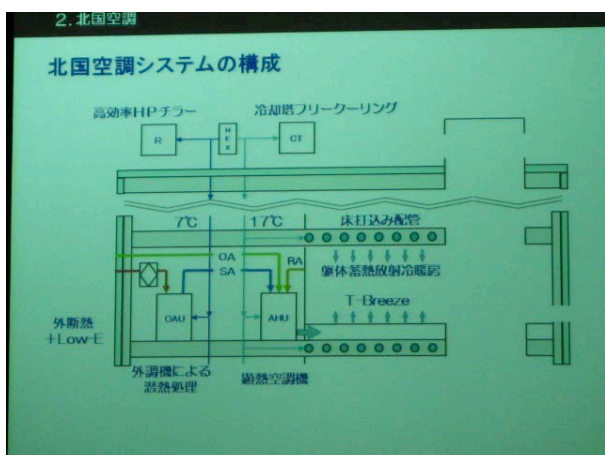
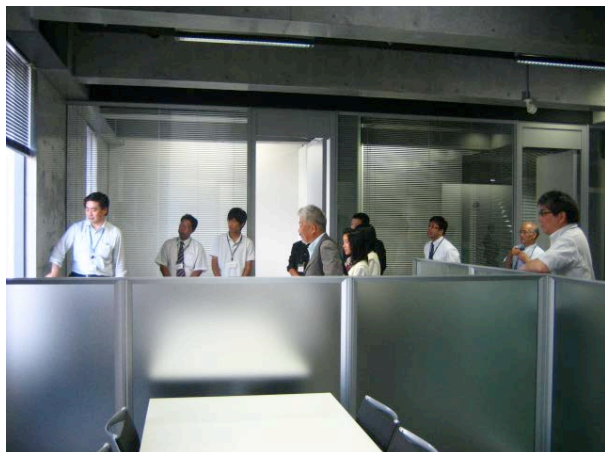
1月20日：新年交礼会において表彰式

### 3) 教育委員会

・北のジュニアオープンデスク

7月24日～：オープンデスク開催 帯広工業高校2人（(有)設計工房アーバンデザイン）・帯広工業高校1人（國枝千秋建築設計工房）・釧路工業高校2人（くりえいと創）

8月12日 同上交歓会・見学会開催 大成札幌ビル施設見学  
鈴木敏司支部長・豊山孝雄・十河昌司



・高校生デザインコンクール

5月：北海道建築整備室主催会議参加

10月：審査会 審査委員として遠藤謙一良氏

・北海道高等学校建築教育研究協議会参加 十河昌司氏・眞壁氏

10月21日：釧路工業高校にて

—— 旭川地区 ——

委員長 軽部 望  
副委員長 北島 法

1) 2012/2/10 講演会「2012木製サッシフォーラム」 協賛 CPD 認定プログラム  
講師：北海道水産林務部、北方建築総合研究所、林産試験場他

2) 2011/2/15 発表会 第22回旭川建築作品発表会共催  
第1部：卒業設計発表～北海道旭川工業高等学校 建築科 (3作品)  
～東海大学 建築・環境デザイン学科 (1作品)  
第2部：特別講演～「アイスシェルの構築技法と空間」  
～東海大学芸術工学部教授・工学博士 粉川 牧氏

通年 支部会議の参加と旭川会への報告・意見聴取  
通年 新入会員の発掘

—— 道東地区 ——

委員長 眞壁 喜男  
副委員長 小野寺 一彦

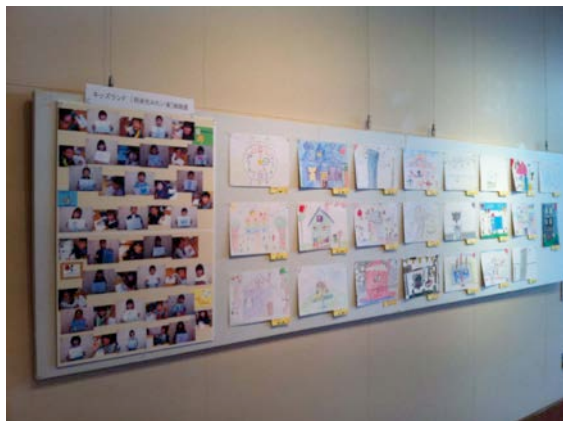
■ 2011年 9月22日～10月 3日

UIA2011東京大会で開催されたイベント、世界住宅会議での「世界の住宅・街並みパネル展」に旭川地区と協同で出展しました。会場は新宿パークタワー。

■ 2011年12月3日・4日

地元設計者の団体「月曜塾」と共催し釧路高専建築学科、釧路工業高校建築科と共に道立釧路芸術館にて「くしろ建築設計団<sup>プラス</sup>」を開催しました。

道東地区は「カタルニアの建築家とその作品」と「道東地区会員作品」を展示しました。又、昨年から参加している釧路の保育園、キッズランドの子供達が画いた「将来住みたい家」も展示され市民の目を楽しませていました。



—— 函館地区 ——

委員長 小澤 武  
副委員長 塚田 俊

- 1) 今年度は、委員会などのJ I Aとしての活動は行われませんでした。

-----建築技術デザイン委員会-----

委員長：小室雅伸

1) 3. 1 1 震災について福島県視察、福島県木造仮設住宅供給支援、復興会議参加ほか、震災及び震災復興に関する情報を提供した。

2) 環境行動ラボに関する活動報告

■U I A東京大会においてアースカタログ展、フクシマ福島復興支援シンポジウムの開催に協力。

■2020年の省エネ法の義務化に向けて、木造伝統工法への適用に関する検討を行っている。

■環境省エコハウス事業の追跡調査報告書の出版を検討中。

(小室雅伸)

——支部建築家資格制度委員会——

委員長：中藪 則喜 副委員長：羽柴 功一  
委員：山之内 裕一、澤 康昌、大田 司

■ 本部・支部合同資格制度委員会（WEB会議）

・2012年3月29日 事務局にて。 支部参加：中藪、大田

資格制度のこれからを中心に意見交換及び協議をしました。主な議題・協議内容は以下のとおりです。

1. 「独立性」と「芸術性」の解釈についての本部・支部の見解、審査状況について報告。
2. 今後は上記の意見を踏まえて資格制度の規則・細則・マニュアルの見直しをする。
3. 本部・支部合同会議の回数を増やし支部間の意思疎通を図り温度差の解消に努める。
4. 資格制度のあり方について支部レベルで事務所協会・士会との協議を活発化させる。
5. 資格制度の広報活動を積極的に行う。

■ 実務訓練部会

・実務訓練生2名から提出された実務訓練経過報告書について2011年7月と12月の2度内容確認をし、支障なしとして本部に報告しました。

■ 登録建築家更新審査

2012年2・3月には、登録建築家更新審査を行いました。

今回の更新予定者は北海道支部全体で、予定者22名ですが、実際に更新の手続きをされたのは19名で更新率は86%でした。

2月24日、申請内容の調査を支部資格制度委員会で行い、支部認定評議会による審査を3月9日に行いました。評議会では、19名全員の更新要件審査を行い、3月末までのCPD取得予定も含めて、支部としては登録更新に問題はないと判断し、本部認定評議会へ審査結果を送付しています。

その結果3月29日の本部認定評議会で全員の更新が認定されました。

■ 登録建築家の新規認定審査

残念ながら今回は、新規申請がありませんでした。この制度を確立・発展させるために、申請資格のある会員は、ぜひとも登録建築家の資格取得をしていただきたいと思います。

以上、2011年度、支部建築家資格制度委員会の活動報告です。

—— 建築相談委員会 ——

委員長 奈良 顕子  
副委員長 國澤 全克

2011年度内に、1件「建築家紹介システム」の応募がありました。札幌で新築予定の横浜在住の方からの応募で、アルクム計画工房の染谷哲行氏に決定しています。

委員長 笹栗 達夫  
副委員長 山道富美男

北海道の「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」の対応と J I A 災害対策委員会の支部窓口の委員会です。

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの震災が多くの被害をもたらし、多くの貴重な教訓を残しました、被災建築物による二次的被害を防止・軽減するための「応急危険度判定」が重要とされ、平成 7 年度以降、震災建築物応急危険度判定士の認定・登録や全国の判定協議会と連携が行われ、北海道でも各支庁の協議会や建築関連団体が協力して相互支援の連絡協議会の早期の設立が求められ「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」は 2006 年 2 月より活動をはじめています。

#### ■ 11 年度活動報告

□ 3 月 22 日

・「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」23 年度総会  
笹栗が参加。

・メールマガジン <http://www1.hokkaido-jin.jp/mail/magazine/>  
の配信を行う。

U I A東京大会・カタルニア建築展 I N北海道

2011年度は日本建築家協会が切望していたU I A大会が東京で行われた。2011年3月11日におきた東日本大震災による東北及び関東地方の津波及び地震の被害、そして福島原発事故が世界中に報道される中で、世界大会であるこの大会が一時中止までの意見も出る中議論され、大会テーマの見直し内容の見直しを踏まえて2011年9月26日より10月1日までの会期で無事開催されたことは日本建築家協会そして一人ひとりの参加登録を行った建築家並びにその関係者の熱意の賜物である。

震災前は1万人の参加目標で進められたが、震災を契機に参加者の登録を見直さざるを得ない状況となりJ I Aが2000名の目標でその他は外国からの参加者や他団体で4000名の計6000名を目標に準備は進められた。わが北海道支部からも60名程の参加が実現した。この様に全国のJ I A支部が協力体制のもとで2000名の目標達成を実現し、予定通り6000名程の大会が開催されたことはJ I Aとしても大変喜ばしいことである。また、何より震災の懸念が残る中、外国からの多くの参加者が有ったことの意義は大きい。\*詳細につきましてはU I A東京大会HPをご覧ください。

U I A東京大会での北海道支部としての関連事業として2010年より交流しているカタルニア建築家協会との行事が札幌で行われた。皆さんご存知の2010年11月のバルセロナでの「北海道建築展 I Nバルセロナ」の交流交換でU I A東京大会直後の2011年10月2日～8日までの会期で「カタルニア建築展 I N北海道」が北海道大学の遠友学舎で行われた。カタルニアからは8名の建築家が訪れ10月2日のオープニング、九州大学教授 吉川茂先生のサクラダファミリア幻の鐘に関する基調講演、「景観再生」と題してJ・フェランド氏の講演。10月3日には「都市景観・歴史的景観」をテーマにE・テラダス氏をはじめ3名のカタルニア建築家のレクチャーに続きカタルニア建築家と北海道建築家のテーブルミーティングを行いました。その夜にはエルムガーデンにて歓迎夕食会を開催しまさに国境を越えた国際談義となりました。

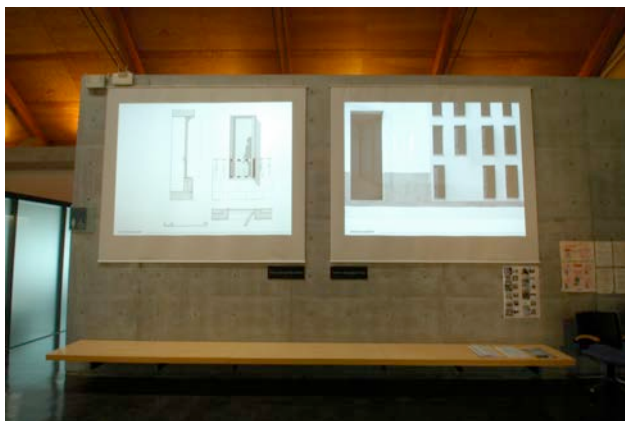
U I A東京大会そしてカタルニア建築家との国際交流において、世界中の建築家は共有する意識を持ち国や環境が違う中においても思考に国境は存在しないことが改めて確認できたような気が致しました。これは私達にとりこれからの国際社会への対応に大きなきっかけをつくってくれたものと思います。

最後になりましたが、U I A東京大会の参加者の皆さま。そして支部事業でのカタルニア建築家との交流イベント等におきまして多くの支部会員及び賛助会、関連諸団体の方々カタルニアと北海道の建築家を繋いでいただいた田中裕也氏にご協力ご支援を頂きましたことに感謝の言葉を紙面を借りまして申し上げます。

U I A 2011 T O K Y O



カタルニア建築展 I N 北海道



### 1) JIA 全国学生卒業設計コンクール 2011

毎月の WEB 会議を行ない、全国 JIA の担当者の協力のもと自主費用により、新宿アイランドタワーBF1F・アクアプラザにおいて JIA 全国学生卒業設計コンクール 2011 開催致しました。

北海道支部から選出された 3 名、渡會美希さん(北海学園大学)、佐藤公哉君(北海道大学)、山下竜二君(北海道工業大学)が参加おしくも入賞はなりませんでしたが、2 次審査を山下君が通過を果たしました。各支部、地域会から選出された全国の作品を前に審査員、各支部地域会担当者、学生達が真剣な議論と評価を繰り返す、建築家が選ぶコンクールは、学生達の心に残る、全国で試される良いコンクールでした。

2011 年 9 月 23 日(金)作品搬入

9 月 24 日(土)公開審査、講評、表彰、懇親会

9 月 25 日(日)展示会、作品搬出

審査委員 山本理顕(審査委員長)、浅石優、トム・ヘネガン、工藤和美、佐藤淳(敬称略)

### 2) 全国学生卒業設計コンクール 2012 審査経過

2011 年 12 月 20 日(火)ワーキンググループにて日程、各大学、高専、短大、専門学校に案内を発送

2012 年 3 月 01 日(木)ワーキンググループにて審査員を確定

審査員長 中山 眞琴(ナカヤマアーキテクト) JIA 会員

審査員 山内 圭吉(山内圭吉建築研究所) JIA 会員

畠中 秀幸(スタジオシンフォニカ) JIA 会員

以上の三氏による審査を決定

3 月 17 日(土) STV 北 2 条ビル B1F 会議室において公開審査にて厳正な審査の基、審査員の投票結果をもとに協議し、金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 1 点、審査員特別賞 3 点選出。

4 月 20 日(金) JIA 北海道支部総会において金賞、銀賞、銅賞の表彰状を授与予定。

### 公開審査風景



入賞者



—— 選挙管理委員会 ——

委員長 橋本 敏明

任期満了に伴う支部役員選挙に関して、支部幹事および監査改選選挙を実施した。2012年度は支部幹事のうち11名がまた支部監査のうち1名が任期満了につき改選となる。3月7日第1回告示を行い、3月15日立候補の届け出締切期日までに所定の立候補者の届け出がなかった。よって3月16日第2回告示を行い、3月27日締切期日までにそれぞれ定数の立候補届け出があり受理した。資格審査の結果、全員適合だったので次期幹事および次期監査として当選人に決定した。

—— 支部規約検討委員会 ——

委員長 橋本 敏明

今年度は、総務委員会と共同し、「社会貢献機会の拡大と支部活動の活性化を目的」とする準会員の増大を図るべく「準会員規則」の検討を行い、改訂した。

—— 住宅部会 ——

住宅部会代表世話人 石塚 和彦  
副代表世話人 赤坂 真一郎  
会計世話人 小尾 慎  
広報世話人 大坂 崇徳  
I T世話人 鷺見 健二  
世話人 大杉 崇  
： 小杉 朋希  
： 新貝 孝之  
： 灘本 幸子  
： 堀尾 浩  
： 森 徳彦  
監 査 真壁 喜男

- 2010年6月14日 住宅部会総会開催  
6月24日 竹山 実氏 キタコブシ賞贈呈式・記念講演  
(内田洋行北海道支社1階 ユーカラ)  
7月16日～ JIA 東北支部 岩手地域会との東日本大震災被災地視察  
7月17日  
7月22日 第1回世話人会打合せ  
8月 5日 住宅賞公開レビュー(大光電機 ショールーム3階)  
(アカシア賞1作品、フキノトウ賞6作品、ハルニレ賞5作品)  
9月 1日 住宅賞発表  
ハルニレ賞 農の舎 agricultural Barn 五十嵐 淳  
フキノトウ賞 宮の森の家 前川 尚治  
アカシヤ賞 該当なし  
キタコブシ賞 荒谷 登  
9月22日～ UIA2011 東京大会 世界住宅会議、世界の家・街並み展 出展  
10月11日  
12月 6日 住宅賞授賞式(KBビル5階(画工房) ケニー・バレル)  
住宅部会忘年会および受賞作品レビュー  
2月25日 建築家のための「木材塗装セミナー」  
『知っているようで知らない木材塗装の話 第2弾』  
3月24日 荒谷 登氏 キタコブシ賞贈呈式・記念講演  
(札幌アスティ 45 12F 札幌市立大学サテライトキャンパス)

以上が2011年度の住宅部会の活動となります。

2012年度は住宅賞の継続はもちろんのこと、見学会・セミナーなど、会員の皆様も参加できる幅広い活動を考え、進めていきます。

住宅賞授賞式



フキノトウ賞 宮の森の家 前川尚治氏



ハルニレ賞 農の舎 agricultural Barn 五十嵐淳氏

荒谷 登氏 キタコブシ賞贈呈式・記念講演



### 第三回JIA「テスクチャレンジ設計コンペ」

テスクチャレンジ設計コンペも三回目となります。環境的な建築に携わる人材の発掘と若い感性を育むことを目的に社会性の高いテーマを扱うことが当該コンペの特色です。2011年3月11日に東北地方を襲った大震災は私たちが当然としてきた社会のありようを厳しく問い直す出来事になりました。コンペ実行委員の中からも今、建築に何ができるのかをテーマに据えるべきとの意見が多く出され、課題は「寒冷地の仮設住宅・持続可能な暮らしに向けて」と決まりました。

#### ■公開審査の様子

J I A北海道支部 コンペ実行委員長 山本亜耕

日時 2011年9月3日(土) 10:30~16:00

場所 札幌駅前地下広場 北大通交差点広場 東

審査 委員長 鈴木大隆 (北方建築総合研究所)  
委員 鈴木敏司 (J I A 北海道支部長)  
丹 征吉 (㈱テスク代表取締役会長)  
赤坂真一郎 (J I A北海道支部)  
堀尾 浩 (J I A北海道支部)  
藤島 喬 (J I A北海道支部)  
櫻井百子 (J I A北海道支部)

後援 北海道、札幌商工会議所、財団法人 北海道建築指導センター、  
社団法人 日本建築学会北海道支部、社団法人 北海道建築士会、社団法人 北海道建築士事務所協会、  
社団法人北海道建築技術協会、社団法人 インテリア産業協会北海道支部、社団法人 日本建築積算協会北海道支部、  
北海道インテリアプランナー協会、北海道設備設計事務所協会、北海道協議会、株式会社札幌社、株式会社 北海道建設新聞社、株式会社 北海道住宅通信社

#### ■入 賞

最優秀賞---「稲わら STOCK PROJECT」 清水 郁江

優秀賞-----「PUT ON THE ARCHITECT」 塩貝友嵩

優秀賞-----「ユタカナハウス」高橋慶多 本川博一 森本かのこ

審査員特別賞---「復興のタネ」 遠藤嵩能

---「EMERGENCY LIVING PACK」 下村憲一 煙山泰子

9月3日に公開審査を札幌駅前地下広場にて一般市民も見守る中、行いました。今年から市民にも自由に投票してもらいながら応募作品を順次絞り込んでゆく方式に変更し、それらを経て最終選考に残った案を各審査委員が聴衆の前で論じながら審査を進めてゆきました。最終的には投票を経て最優秀賞1名、優秀賞2名を選びましたが、審査委員長の判断により急遽、審査員特別賞2名を加える大熱戦となりました。表彰式は、北海道支部の新年交礼会にて行われ、入賞者による海外旅行の見学報告が行われました。またコンペの様子は北海道建設新聞社及び北海道住宅通信社、取材の記事として報道されました。

記： 山本亜耕（J I A北海道支部 環境部会代表世話人）



公開審査の様子 多数の市民の前で選考に残った設計者がプレゼンを行う。



審査の議論は白熱し、考える楽しみに満ちたものとなった。